

年未年始に向けた アフリカ豚熱等の防疫対策徹底を！

これから年未年始及び春節を迎え、海外からの観光客の増加、人や物の動きがより活発になることが見込まれます。

しかしながら、日本の近隣諸国ではアフリカ豚熱、口蹄疫等の発生が継続し、又は拡大しており、特にアフリカ豚熱は日本と台湾を除くアジアで継続的に発生が確認されていることから、我が国への侵入リスクは依然として高い状況にあります。

豚熱（CSF）についても、本年は国内で12月25日現在、4件発生し、内2件は佐賀県での発生で、平成30年9月以降初めて、九州地方で豚熱が確認されました。

口蹄疫は、日本では平成22年以降確認されておりませんが、本年も韓国および中国で発生が確認されています。

アフリカ豚熱、口蹄疫等の現在日本で流行していない家畜伝染病の侵入防止に万全を期すとともに、農場への家畜伝染病侵入防止対策を徹底しましょう。

病原体侵入防止のため、

- 関係者以外の農場立入を制限してください。
- 発生地域への渡航を自粛してください。
- 海外から肉製品を違法に持ち込むことが無いよう従業員に周知してください。

消毒及び衛生管理区域への病原体持込み防止の徹底！

(1) 衛生管理区域への病原体の侵入防止

- ① 看板の設置等により、必要のない者を衛生管理区域に立ち入らせない
- ② 入口付近に車両消毒設備を設置し、車両を入れる者に対し車両の消毒をさせる
- ③ 入口付近に消毒設備を設置し、立ち入る者に手指の消毒をさせる
- ④ 衛生管理区域専用の衣服及び靴を設置し、立入者へ着用させる

(2) 野生動物の侵入防止対策

- ① 野生動物が侵入しないよう防護柵の設置、点検
- ② 畜舎、飼料保管庫、敷料保管場所、堆肥舎等に野鳥等の野生動物が侵入することを防止できる防鳥ネット等の設置、点検

【CSF及びASFの特定症状】

★ (1) ~ (7) の症状が一定期間(一週間程度)に増加している場合

- (1) 40℃以上の発熱、元気消失、食欲減退
- (2) 便秘、下痢
- (3) 結膜炎(目やに)
- (4) 歩行困難、後躯麻痺、けいれん
- (5) 削瘦、被毛粗剛、発育不良(いわゆる「ひね豚」)
- (6) 流死産等の異常産の発生
- (7) 皮下出血、皮膚の紅斑、鼻等からの出血、血便

★ 耳、下腹部、四肢等に紫斑(チアノーゼ)がある場合

★ 複数の繁殖豚又は肥育豚が一定期間(一週間程度)に突然死した場合

豚熱の症状



耳翼の紫斑



元気がない



結膜炎

写真提供：岐阜県

アフリカ豚熱の症状



死亡



チアノーゼ

病状は多岐に渡り、甚急性、急性、亜急性、慢性の症状を示す。甚急性では突然死亡、急性では発熱(40~42℃)、皮下出血、脾臓の腫大、粘血便、チアノーゼ等を呈し、死亡率は100%に近い。

写真出典：国立研究開発法人農業食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門

写真は農林水産省 HP より引用

家畜に異常が認められたら、連絡をお願いします！

庄内家畜保健衛生所 0235-68-2151

(夜間・休日は携帯に転送されます)